

今、高校生が考える生成AIとの付き合い方 ―「誤情報・偽情報」を超えた活用法を考える―

開催地： 長崎

グループ：

1班

2024.8.24



# 提言①

## 1 テーマ: 生成AIの活用と役割

### 2 意見

- ・文章の生成

課題(計算や俳句などの表現、作文)、プログラミング(提案やエラー処理含む)、

発表資料(アイデア)、コマンド等といった OS上の質疑に対応)

疑問点に対する回答に対して効率がよく活用がしやすい。

- ・画像の生成(娯楽)

### 3 課題

間違いや話が食い違っていたようなこともある。

### 4 提言

- ・生成AIを活用する上でのリスクを抑えて活用するための法整備

- ・子どものころから生成 AIの活用に係る教育を行う。

- ・CMなど各種メディアを通じて幅広い世代に生成 AIの活用に伴うリスクを広報する。

# 提言②

## 1 テーマ: 生成AIの「誤情報・偽情報」とは

### 2 意見

#### ■実際に見聞きした誤情報・偽情報

- ・能登半島地震における偽の被害情報
- ・格闘家の選手がナイフで刺されて亡くなったという偽情報( SNSにおけるYahoo! ニュースを騙った記事)
- ・新型コロナ→トイレトペーパーがなくなる・先日の宮崎地震 →米が買えなくなる? 買い占めの発生

### 3 課題(なぜ、誤情報・偽情報が出回るのか?)

- ・利用する人間自身が洗練されていない → 誤情報を拡散してしまう
- ・生成AIは出始めであり、まだ使い慣れてない(学習が浅い) → 誤情報と気づかずに活用
- ・生成AI自体の学習不足(情報が膨大すぎる) → 誤情報の生成
- ・親切心や共感を求めた拡散(災害情報など) → 誤情報
- ・目立ちたい、金銭欲しさの欲求 → 生成AIを活用し情報生成 → 拡散 → 偽情報

### 4 提言

- ・偽情報の拡散が犯罪になることがあるということをもっと広く広報する(法に触れる行為と罰則を周知)。
- ・知識が浅い人も誤情報・偽情報を判別できるアプリを作成する。
- ・フェイクニュース・フェイク動画には、その旨を表示させるように法律で義務付ける。

# 提言③

## 1 テーマ:生成AIの「誤情報・偽情報」を超えた活用法とは どのようなイメージか

### 2 意見

- ・メタバース空間(仮想空間)を活用した現実社会にある機関等や各行事の設立  
→ 不登校や外で生きづらい人たちへの新しい社会の場
- ・仮想空間内で自身を再現し、客観的に観察し課題を見出す。
- ・距離(国境)を超えた交流(オンラインでのスポーツ大会、他国の人との交流)
- ・AIに物事を0から1の部分を生成してもらい、その後は人の考えを足していく。

### 3 課題

AIに依存し、現実社会とバランスが取れなくなる。(依存症の懸念)

### 4 提言

依存に対する注意喚起の情報発信(CMなど)

## 提言④

### 1 テーマ: 高校生が社会に対して果たせる役割とは何か

#### 2 意見

高校生 → 社会人よりも時間があり、下の世代とも近い存在であるため、価値観も近い。

→ 知識向上と養育の時間がある。(生成AI利用のサポート(親、高齢者世代も含む。))

そして、高校生はSNSなどの各種メディアを使い慣れている。

#### 3 課題

同世代(高校生)でも生成AIが身近ではない子もいる。

そういった横のつながりがある子たちに、分かる子が伝えていくことも大切である。

#### 4 提言

環境整備(行政が現実とネット空間の均衡を保ってほしい)

教育の場にあるパソコンを使いまわす運用となっている → 進んでいく時代に旧式では対応できない。

→ 運用の見直しを!(時代にあった新しい機器を随時取り入れてほしい。)

多種多様なボランティアの立ち上げをしてもらい、AI活用等の教養を!

各校で情報リテラシーを学ぶ機会に差がある。→ 小中学校で必ず学びを得られるような整備を!